

# 1 全国学力・学習状況調査結果の概要

## 【小学校】

### (1) 町の大まかな傾向

平成25年度調査から平成26年度調査へは、国語A・B、算数A・B全てにおいて、全国平均との差を縮めたが、平成27年度調査では、全てにおいて全国平均との差を広げる結果になった。理科を含め全国平均－5ポイントを下回っており、国語A・Bにおいてはその差が顕著である。

正答数分布グラフでは、全国平均に比べて低得点側（左側）にピークがあり、波形が左側に数問寄っている状況にある。また、満点に近い高得点の人数の割合が全国に比べて少なく、0問から2問までの得点層の人数の割合が多くなっている。

また、これまで全体的に減少傾向にあった無回答率についても、26年度に比べると増加傾向にあり、正答率が低い設問は無回答率が高い。

国語Aの漢字の書きについては、これまでも課題として挙げられてきていたが、正答率が全国を下回る状況にある。国語A全14問中、漢字の読み書きが6問出題されていることもあり、今後の具体的な指導改善と定着へ向けた取り組みが必要である。

また、算数Aについても、これまでも課題として挙げられてきていた、分数の計算について正答率が全国を下回る状況にある。

国語、算数共に、B問題では、記述式の問題に課題がある。記述式の問題への無回答率についても依然として高い状況にある。

理科については、A（主として「知識」に関する問題）・B（主として「活用」に関する問題）混合の形式での実施となった。Aの設問については、全国平均とほぼ同様の傾向にあり、全国平均を上回る設問もあった。Bの設問の中で、記述式を含む一部に課題がある。

「読むときのくふうを、理由や気持ちを入れながら40字以上80字以内にまとめて書くこと」（国語B）や、「求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述する」（算数B）といった力（いわゆるPISA型学力）を育む指導のいっそうの充実が必要である。さらには中学校への接続を視野に入れた具体的な取り組みが必要である。

また、小学校ごとに、町全体の傾向と学校ごとの課題が同一ではないのもこれまで通りである。また、平成25年度からの連続3年間の調査からの変化についても、学校ごとにその変化量の大きさに違いが見られている。各学校ごとに課題を明らかにした上で、解決へ向けての取り組みが求められる。

## (2) 国語A

**漢字の書きに課題がある。「文の中の主語を捉える」に課題がある。「案内の中から、必要な情報を読み取る」に課題がある。**

[26年度]

漢字の読み書き、特に書きに課題がある。故事成語の意味と使い方に課題がある。「複数の事柄を並列の関係で書く」「話し合いの観点に基づいて情報を関係づける」に課題がある。

[25年度]

漢字の読み書きに課題がある。ことわざの意味や使い方、文の定義に課題がある。「目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書く」「読んで特徴を捉える」「表現の工夫とその効果を説明したものとして適切なものを選択する」に課題がある。

## (3) 国語B

**「声に出して読むときのくふうとその理由を書く」「取材した内容を整理しながら記事を書く」「要旨をまとめて書く」「文章と図とを関連付けて自分の意見を書く」の記述式の問題に課題がある。**

[26年度]

「質問の意図を捉える」「内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える」「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く」「二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く」に課題がある。記述式の問題に課題がある。

[25年度]

「相手の立場や状況を感じ取って聞く」「目的や意図に応じ、必要な内容を適切に書く」「2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉える」に課題がある。記述式の問題に課題がある。

## (4) 算数A

**四則計算の設問の中で、分数の減法除法に課題がある。円や三角形の図形の性質に課題がある。**

[26年度]

四則計算の設問の中で、異分母分数の加減法に課題がある。「割合」「単位量あたりの大きさ」「作図に用いられている図形の約束や性質」「二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すこと」に課題がある。

[25年度]

四則計算は多くの児童ができていますが一部課題がある。「四捨五入」「被除数を求める」「面積の単位」「合同」「展開図」「割合」に課題がある。「必要な情報を取り出して面積を求める」は課題克服が見られている。

## (5) 算数B

「割引の値段の求め方から誤りを指摘し正しい求め方と答えを記述する<割合>」に課題がある。「四捨五入しておよその数にして計算し、目標に達しているかどうかを判断する」に課題がある。「示された、『面積を二等分する考え』を適用して面積を求める」に課題がある。数学的な考え方を問われる問題や記述式の問題に課題がある。

[26年度]

「二人の説明を基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述する」「最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述する」「10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択する」「示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述する」「二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述する」に課題がある。数学的な考え方を問われる問題や記述式問題に課題がある。

[25年度]

「安くなる買い方を選択し理由を記述する」「二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述する」「台形を分割したときに、4等分にはならないわけを選択する」「単位量あたりの大きさに着目して、二つの数量の関係の求め方を記述する」「示された数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断する」「比較量の大小を判断し理由を記述する」に課題がある。理由を説明する問題や記述式問題に課題がある。

## (6) 理科

「水があたたまる順番を答え、実験結果の考察ができる<水のあたたまりかた>」に課題がある。「温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く<もののとけかた>」に課題がある。

## (7) 無解答率と「解答時間は十分だったか」

無解答率については26年度に比べ、国語A、算数A・Bにおいて増加している。また国語Bにおいては、全国平均との差が広がった。各設問ごとに見ると、最後のほうの問題が無回答率が高い傾向はない。つまり、正答率が低い設問が無解答率も高い状況にある。

一方、児童質問紙調査における「解答時間は十分だったか」については、「足りなかった」(①全く足りなかった)と「②やや足りなかった」の合計)と回答している割合が毎年減少傾向にあるが、26年度と比べるとそれほど大きな変化はない。算数Bは全国平均との差がほぼ同じであるが、26年度からは増加している。算数Bの難易度が高かったことにも起因していると考えられ、「時間が足りない」と感じる児童が依然として多い。

全国学力・学習状況調査 無解答率経年変化

国語A	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度	国語B	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度
寒川町 (全国との差)	20.1	18.1	14.9	4.8	<b>8.1</b>	寒川町 (全国との差)	24.1	22.3	18.9	12.7	<b>10.0</b>
	(9.2)	(8.2)	(4.2)	(2.5)	<b>(4.5)</b>		(11.8)	(10.2)	(5.3)	(3.5)	<b>(3.9)</b>
全国	10.9	9.9	10.7	2.3	<b>3.6</b>	全国	12.3	12.1	13.6	9.2	<b>6.1</b>
算数A	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度	算数B	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度
寒川町 (全国との差)	7.1	4.7	2.0	1.3	<b>3.3</b>	寒川町 (全国との差)	13.1	12.1	8.8	8.1	<b>13.5</b>
	(4.1)	(2.6)	(0.3)	(0.4)	<b>(1.5)</b>		(7.1)	(5.9)	(2.5)	(3.8)	<b>(4.4)</b>
全国	3.0	2.1	1.7	0.9	<b>1.8</b>	全国	6.0	6.2	6.3	4.3	<b>9.1</b>
理科					27年度						
寒川町 (全国との差)					<b>4.1</b>						
					<b>(0.9)</b>						
全国					<b>3.2</b>						

児童質問紙調査「調査問題の解答時間は十分でしたか」

①「全く足りなかった」+②「やや足りなかった」

国語A	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度	国語B	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度
寒川町 (全国との差)	67.6	67.0	65.7	25.2	<b>26.0</b>	寒川町 (全国との差)	59.9	51.6	46.5	58.2	<b>39.0</b>
	(23.1)	(24.0)	(16.8)	(11.1)	<b>(9.9)</b>		(18.9)	(14.1)	(6.0)	(9.2)	<b>(7.1)</b>
	① 12.4	① 11.3	① 13.3	① 3.1	① <b>3.8</b>		① 16.9	① 15.6	① 13.3	① 14.3	① <b>8.0</b>
	② 55.2	② 46.2	② 52.8	② 22.1	② <b>22.2</b>		② 43.0	② 36.0	② 33.2	② 43.9	② <b>31.0</b>
全国	44.5	43.0	48.9	14.1	<b>16.1</b>	全国	41.0	37.5	40.5	49.0	<b>31.9</b>
算数A	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度	算数B	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度
寒川町 (全国との差)	39.0	28.0	31.3	16.7	<b>20.2</b>	寒川町 (全国との差)	48.8	37.8	33.7	34.0	<b>36.6</b>
	(18.6)	(12.1)	(7.6)	(6.4)	<b>(5.4)</b>		(17.8)	(9.1)	(5.8)	(10.8)	<b>(0.8)</b>
	① 8.7	① 5.4	① 6.0	① 2.9	① <b>4.2</b>		① 13.6	① 10.4	① 7.2	① 9.4	① <b>9.8</b>
	② 30.3	② 22.6	② 25.3	② 13.8	② <b>16.0</b>		② 35.2	② 27.4	② 26.5	② 24.6	② <b>26.8</b>
全国	20.4	15.9	23.7	10.3	<b>14.8</b>	全国	31.0	28.7	27.9	23.2	<b>35.8</b>
理科					27年度						
寒川町 (全国との差)					<b>19.1</b>						
					<b>(+0.7)</b>						
					① <b>2.9</b>						
					② <b>16.2</b>						
全国					<b>19.8</b>						

## 【中学校】

### (1) 町の大まかな傾向

国や県とほぼ同様な傾向であり、平成26年度調査から、国語A・B、数学Bにおいて、全国平均との差を縮めている。特に国語Bは全国平均との差を5ポイント以上つめることができた。悉皆調査としては初めて町全体のデータが得られた理科を含め、国語A・B、数学A・Bすべてにおいて、全国平均－5ポイント以内にあり、取り組みの成果が表れている。

正答数分布グラフにおいてもほぼ全国と同様の傾向となっている。国語A・B共に、平均正答数よりも低い点数でのピークがなくなった。数学A、理科では、高得点の人数が全国平均の割合を下回っている。数学Bは、平均正答数よりも低い点数でのピークが依然として見られている。

国語Aについては、課題であった漢字の読み書きに伸びが見られている。また、国語Bについては、すべての設問が全国平均－6ポイント以内であり、9設問中7問が－5ポイント内である。「要旨を捉える」「理由を具体的に書く（記述式）」は全国平均を上回っている。また、「自分の考えをもつ」「活用して話す」といった設問に対しても成果が上がっており、中学校におけるコミュニケーション活動や言語活動の充実、仲間と共に話し合い協力しながら創り上げていく活動の豊富さが成果に結びついていると考えられる。

数学Aについては、26年度は全国平均をわずかであるが超えたが、27年度は一部基本的な設問で正答率が低い。しかし半数以上の設問が全国平均－5ポイント内にあり、学習の成果が見受けられる。また、数学Bについては、全国平均点が下がり難易度が上がったが、「説明する」「証明する」といった記述式の問題の正答率が全国平均を上回っており、全設問15問中12問が全国平均－5ポイント内にある。

理科については、おおむね全国と同様の傾向にある。一部基本的な事項についての課題が見受けられるものの、「説明する」記述式の問題や「指摘する」選択式の問題において成果を挙げている。

寒川小学校が研究テーマを「伝え合う力の育成」としたのが平成18年。以降、各小学校では国語・算数を中心に、「言語活動」や「コミュニケーション能力」をキーワードに取り組みを行ってきた。中学校においても、各教科及び道徳や教科外の学習において、認め合い・伝え合い・高め合う授業に取り組んできた。平成19年に小学校1年生に入学した児童が現在の中学3年生である。読み取る・捉える・理解する、考える、考えを話す・書く・伝える・創り出すという取り組み、共通の課題としていた「的確に捉え理由を説明する」「事象を自分の力で読みひらき、自分の考えを持ちながら、それらを適切に表現する」といった力（いわゆるPISA型学力）を育む指導の成果が現れていると考えられる。

小学校同様、中学校ごとに、達成状況、課題状況に違いが出てきており、町全体の傾向と学校ごとの課題が同一ではない。また、平成25年度調査から3年間の変化についても、学校ごとにその変化量の大きさに違いが見られている。各学校ごとに課題を明らかにした上で、解決へ向けての取り組みが求められる。

## (2) 国語 A

**「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」の特定の設問に課題がある。**

[26年度]

漢字の読み書きの特定の設問に課題がある。「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」の特定の設問に課題がある。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことに課題がある。「多様な方法で材料を集めながら考えをまとめる」ことに課題がある。

[25年度]

漢字の読みは概ね良好であるが特定の設問に課題がある。漢字の書きについては課題がある。言語文化等（古典）の学習に課題がある。「話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす」「文章を目的に応じた表現に直し、伝えたい事柄を明確に書く」に課題がある。「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」について概ね良好であり課題克服が見られている。

## (3) 国語 B

**「複数の資料から適切な情報を得て、条件に合わせて説明する」の記述式（80字～100字）に課題がある。**

[26年度]

「表現の技法について理解する」ことに課題がある。「複数の資料から必要な情報を読み取る」「本や文章から目的に応じて必要な情報を読み取る」ことに課題がある。「根拠を明確にして自分の考えを書く」などの記述式の問題に課題がある。

[25年度]

「図と文章の関係を捉える」「文章の内容について根拠を明確にして自分の考えを書く」「漢字の特徴を捉えて自分の考えを具体的に書く」に課題がある。自分の考えを説明したり、分かりやすく伝わるように書いたりする記述式の問題に課題がある。

## (4) 数学 A

**「数と式」の中で、等式変形と連立二元一次方程式の立式に課題がある。度数分布表の作成に課題がある。さいころを投げるときの確率に課題がある。**

[26年度]

「数と式」の中で、分数の除法に課題がある。

[25年度]

「数と式」に関して概ね良好であるが、「正の数と負の数」「文字式」の特定の設問に課題が

ある。「空間における2直線の位置関係」「多角形の外角の意味」「関数の意味」「反比例のグラフ」「ヒストグラムから相対度数を求める」「確率」に課題がある。

## (5) 数学B

**「連続する3つの整数の和」について、説明を完成させたり、自分の予想を指示された形式で書いたりする記述式の設問に課題がある。**

[26年度]

「数量の関係を数学的に説明する」ことに課題がある。「樹形図を利用して、与えられた情報を分類整理する」ことに課題がある。「問題を解決する方法を説明する」という記述式の設問に課題がある。

[25年度]

「与えられた情報を言葉で表された式に基づいて処理する」「問題場面における考察の対象を明確に捉える」に課題がある。また、「事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明する」「資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明する」「事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明する」の記述式の問題に課題がある。

## (6) 理科

**「化学式を書く」に課題がある。「実験の結果から、音の高さの変化の根拠を波形をもとに選ぶに課題がある。**

## (7) 無解答率と「解答時間は十分だったか」

無解答率の経年変化から、国語A・B、数学A・Bともに、無解答率の平均は減少傾向にある。数学Bは26年に比べ微増であるが全国平均よりも少なく、全て全国の平均と同様に推移している。学校での「わかる授業」の実践、諦めずに粘り強く取り組む指導が生徒に定着していると言える。

一方、生徒質問紙調査における「解答時間は十分だったか」については、「足りなかった」(①全く足りなかった)と「②やや足りなかった」の合計)と回答している割合は26年度同様ほぼ全国の平均と同様の傾向である。国語Bおよび数学Bについては最終設問の無回答率が全国、町ともに高いため「足りない」の回答率が上がったと思われる。最終設問一つ前の設問の無回答率は極めて低い。

全国学力・学習状況調査 無解答率経年変化

国語A	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度	国語B	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度
寒川町 (全国との差)	5.2 (1.4)	5.2 (1.9)	3.6 (1.2)	4.0 (0.9)	<b>2.8</b> <b>(0.2)</b>	寒川町 (全国との差)	12.2 (3.6)	9.1 (3.5)	4.8 (2.0)	4.5 (1.0)	<b>2.5</b> <b>(0.3)</b>
全国	3.8	3.3	2.4	3.1	<b>2.6</b>	全国	8.6	5.6	2.8	3.5	<b>2.2</b>
数学A	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度	数学B	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度
寒川町 (全国との差)	8.7 (2.1)	7.7 (2.6)	6.0 (0.7)	5.2 (0.9)	<b>3.8</b> <b>(0.1)</b>	寒川町 (全国との差)	17.6 (4.2)	15.7 (6.0)	20.9 (4.2)	13.7 (2.8)	<b>14.0</b> <b>(+1.3)</b>
全国	6.6	5.1	5.3	4.3	<b>3.7</b>	全国	13.4	9.7	16.7	10.9	<b>15.3</b>
理科					27年度						
寒川町 (全国との差)					<b>8.2</b> <b>(0.3)</b>						
全国					<b>7.9</b>						

生徒質問紙調査「調査問題の解答時間は十分でしたか」

①「全く足りなかった」+②「やや足りなかった」

国語A	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度	国語B	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度
寒川町 (全国との差)	13.0 (3.6) ① 3.4 ② 9.6	4.4 (+0.8) ① 1.1 ② 3.3	5.7 (+0.6) ① 1.7 ② 4.0	5.8 (+0.2) ① 1.3 ② 4.5	<b>7.8</b> <b>(2.7)</b> ① 1.4 ② 6.4	寒川町 (全国との差)	34.7 (3.4) ① 9.6 ② 25.1	7.5 (+0.6) ① 1.5 ② 6.0	20.7 (+1.1) ① 4.0 ② 16.7	19.5 (0.1) ① 3.5 ② 16.0	<b>18.6</b> <b>(5.1)</b> ① 2.5 ② 16.1
全国	9.4	5.2	6.3	6.0	<b>5.1</b>	全国	31.3	8.1	21.8	19.4	<b>13.5</b>
数学A	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度	数学B	20年度	21年度	25年度	26年度	27年度
寒川町 (全国との差)	12.8 (2.5) ① 3.7 ② 9.1	7.5 (0.2) ① 2.0 ② 5.5	/	6.4 (+2.1) ① 1.9 ② 4.5	<b>10.8</b> <b>(2.0)</b> ① 1.4 ② 9.4	寒川町 (全国との差)	27.3 (+3.5) ① 9.1 ② 18.2	13.2 (+0.6) ① 2.4 ② 10.8	/	22.1 (0.2) ① 4.5 ② 17.6	<b>25.1</b> <b>(2.2)</b> ① 5.1 ② 20.0
全国	10.3	7.3	/	8.5	<b>8.8</b>	全国	30.8	13.8	/	21.9	<b>22.9</b>
理科					27年度						
寒川町 (全国との差)					<b>17.5</b> <b>(3.3)</b> ① 4.4 ② 13.1						
全国					<b>14.2</b>						

※25年度は質問紙調査が3種類あり、全校での質問項目になっていない。

※25年度は数学A・Bについての質問項目がない。